

担当講座	皮膚科学講座	問合せ先	皮膚科学講座
分野責任者	天野 博雄 教授	連絡先	内線6543
担当教員	天野 博雄 教授 渡部 大輔 講師 馬場 俊右 講師 角田 加奈子 講師 三浦 慎平 助教		
人材育成の 基本理念	皮膚科学の幅広い知識を有し、皮膚科学の研究を遂行でき、地域医療に貢献できる人材を育成する。皮膚科専門医を取得できる皮膚科医を育成する。		
主な研究内容	皮膚疾患の病態・治療に関する研究を行う。		
教育成果 (アウトカム)	教育成果	該当するディプロマポリシー	
	皮膚の解剖、機能、疾患概念、診断、治療、予防に関する知識を修得することで、皮膚科医として適切な診断、治療、研究ができる能力を有するレベルに到達する。 地域医療を実践できる能力を修得するレベルに到達する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	
達成目標	達成目標	対象科目	
	(1)生命科学や、医学研究のための基本的な知識を活用できる	ベーシックセミナー	
	(2)適切な研究デザイン、解析法を立案し実施できる。	研究方法論	
	(3)得られた研究結果を正しく解釈できる。	特別研究ⅠⅡⅢ	
	(4)解析結果ををまとめ、発表できる(英文が望ましい)	特別研究ⅠⅡⅢ	
	(5)病因の解明や治療法の発展に寄与できる。	特別研究ⅠⅡⅢ	
	(6)次世代の人材育成に貢献できる。	特別研究ⅠⅡⅢ、大学院セミナー	
	(7)皮膚の基礎研究ならびに臨床研究を行うことにより、皮膚疾患の病態、診断、治療について説明できる。	皮膚科総論1、皮膚科総論2、皮膚病理学、表皮生物学、色素細胞学、皮膚免疫学、真皮生物学、創傷治癒学	
	(8)皮膚の基礎研究ならびに臨床研究を行うことにより、最先端の皮膚科的研究について説明できる。	表皮生物学、色素細胞学、皮膚免疫学、真皮生物学、創傷治癒学	
	(9)皮膚の基礎研究ならびに臨床研究を行うことにより、学会発表・論文作成ができる。	表皮生物学、色素細胞学、皮膚免疫学、真皮生物学、創傷治癒学	
(10)皮膚の基礎研究ならびに臨床研究を行うことにより、地域医療を実践できる。	皮膚科総論1、皮膚科総論2、皮膚病理学		
資格取得等	日本皮膚科学会専門医の取得を目指す。		
履修に関する 情報	社会人大学院生など、勤務等で授業に出席できない場合は、日程等の調整に応じる。入学時より前半の2年間の間に共通教育科目の必修科目「研究方法論(2単位)」に加えて、選択必修科目を履修することが望ましい。		

## ●在学中に履修できるカリキュラム

区分	配当年次	科目名	開講	コマ数	単位	修了までに 必要な単位	備考
研究 特 論	1～4年	実習 皮膚病理学	通年	30	2	20単位	※20単位以上の取得可
		講義 皮膚科総論1	通年	30	4		
		講義 皮膚科総論2	通年	30	4		
		実習 表皮生物学	通年	30	2		
		実習 色素細胞学	通年	30	2		
		講義 皮膚免疫学	通年	30	4		
		実習 真皮生物学	通年	30	2		
特別 研究	2年 3年 4年	特別研究Ⅰ(初期審査)	通年	8	1	4単位	※2021年度以降入学者 対象科目
		特別研究Ⅱ(中間審査)	通年	8	1		
		特別研究Ⅲ(論文作成)	通年	15	2		

※他分野の単位取得は分野責任者に相談の上、教務課へ連絡してください。

●各科目の授業計画

皮膚科学

コード	MD14201010				MD14201020				MD14201030				MD14201040			
科目	皮膚病理学				皮膚科総論1				皮膚科総論2				表皮生物学			
科目責任者	天野博雄				渡部大輔				角田 加奈子				渡部大輔			
担当者	天野博雄				渡部大輔				角田 加奈子				渡部大輔			
会場	皮膚科医局				皮膚科医局				皮膚科医局				皮膚科医局			
区分等	区分	実習	単位	2	区分	講義	単位	4	区分	講義	単位	4	区分	実習	単位	2
	回数	通年30コマ	配当年次	1~4	回数	通年30コマ	配当年次	1~4	回数	通年30コマ	配当年次	1~4	回数	通年30コマ	配当年次	1~4
主な授業内容	皮膚疾患の病理				皮膚の解剖と機能・免疫				皮膚感染症・色素異常症				表皮の形態と角化			
教育成果	皮膚病理について学び、皮膚の病態と病理が理解できるようになる。				皮膚の解剖と機能・免疫について学び、皮膚の解剖と機能・免疫を理解できるようになる。				皮膚感染症と色素異常症について学び、その病態と診断・治療が理解できるようになる。				表皮の形態と角化について学び、表皮の形態、機能と角化、表皮の疾患について理解できるようになる。			
SB到達	分野の達成目標 (7), (10)				分野の達成目標 (7), (10)				分野の達成目標 (7), (10)				分野の達成目標 (7), (8), (9)			
特記事項	<p>各講義に対する事前学修の時間は最低30分を要し、内容は担当教員に確認すること。</p> <p>【2021年度以降の入学】全講義終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。</p> <p>「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。</p> <p>【2020年度までの入学】講義の出欠は履修手帳で管理する。</p>															
評価方法	<p>【2021年度以降の入学】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点)の4段階評価とし、ABC (60点以上)を合格とする (60点未満は再提出)。</p> <p>【2020年度までの入学】出席、レポートなどにより総合的に評価する。</p>															
講義日程	時間割参照															
教科書参考書																

コード	MD14201050				MD14201060				MD14201070				MD14201080			
科目	色素細胞学				皮膚免疫学				真皮生物学				創傷治癒学			
科目責任者	三浦 慎平				天野博雄				馬場俊右				馬場俊右			
担当者	三浦 慎平				天野博雄				馬場俊右				馬場俊右			
会場	皮膚科医局				皮膚科研究室				皮膚科研究室				皮膚科研究室			
区分等	区分	実習	単位	2	区分	講義	単位	4	区分	実習	単位	2	区分	講義	単位	4
	回数	通年30コマ	配当年次	1~4	回数	通年30コマ	配当年次	1~4	回数	通年30コマ	配当年次	1~4	回数	通年30コマ	配当年次	1~4
主な授業内容	メラノサイトの細胞移動能				アトピー性皮膚炎治療の実際と作用機序				線維芽細胞培養法				創傷治癒の機序と異常			
教育成果	メラノサイトについて学び、メラノサイトの機能と細胞移動能について理解できるようになる。				アトピー性皮膚炎について学び、アトピー性皮膚炎の病態と治療・研究が理解できるようになる。				線維芽細胞の培養について学び、線維芽細胞の培養と手技が理解できるようになる。				創傷治癒の機序と異常について学び、創傷治癒の機序と異常について理解できるようになる。			
SB到達	分野の達成目標 (7), (8), (9)				分野の達成目標 (7), (8), (9)				分野の達成目標 (7), (8), (9)				分野の達成目標 (7), (8), (9)			
特記事項	<p>各講義に対する事前学修の時間は最低30分を要し、内容は担当教員に確認すること。</p> <p>【2021年度以降の入学】全講義終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。</p> <p>「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。</p> <p>【2020年度までの入学】講義の出欠は履修手帳で管理する。</p>															
評価方法	<p>【2021年度以降の入学】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点)の4段階評価とし、ABC (60点以上)を合格とする (60点未満は再提出)。</p> <p>【2020年度までの入学】出席、レポートなどにより総合的に評価する。</p>															
講義日程	時間割参照															
教科書参考書																

●各科目の授業計画

コード	MD14209010				MD14209020				MD14209030							
科目	特別研究Ⅰ				特別研究Ⅱ				特別研究Ⅲ							
科目責任者	各（正）指導教員				各（正）指導教員				各（正）指導教員							
担当者	各指導教員				各指導教員				各指導教員							
会場	各指導教員と相談の上決定				各指導教員と相談の上決定				各指導教員と相談の上決定							
区分等	区分	演習	単位	1	区分	演習	単位	1	区分	演習	単位	2				
	回数	通年8コマ	配当年次	2	回数	通年8コマ	配当年次	3	回数	通年15コマ	配当年次	4				
主な授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学や研究手法の基礎的な知識</li> <li>・研究計画調書の作成</li> <li>・初期審査実施</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学や研究手法の専門的な知識</li> <li>・中間審査実施</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学や研究手法の発展的な知識</li> <li>・論文作成</li> <li>・最終審査の準備</li> </ul>							
教育成果	<p>生命科学や研究手法の基礎的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。</p> <p>&lt;初期審査&gt; 2年次末までに実施。 研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調書等に基づき、研究の概要について口答で説明し、その妥当性について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。</p>				<p>生命科学や研究手法の専門的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。</p> <p>&lt;中間審査&gt; 3年次末までに実施。 研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調書に基づき、研究の概要及び進捗状況について口答で説明し、現在に至るまでの過程及び初期審査時の目標の達成度等について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。</p>				<p>生命科学や研究手法の発展的な知識を身につける。最終審査に向けて、情報を適切に分析し、論旨を展開できる。</p> <p>&lt;論文作成&gt; 4年次12月までに実施。 論文作成に向けたデータ収集や解釈、図譜の作成や記載ができ、論文を作成できる。</p>							
SBO 目標達	分野の達成目標 (3) (4) (5) (6)				分野の達成目標 (3) (4) (5) (6)				分野の達成目標 (3) (4) (5) (6)							
特記事項	初期審査の詳細は、「初期・中間審査の手引き」を参照。				中間審査の詳細は、「初期・中間審査の手引き」を参照。											
評価方法	①受講票 ②初期審査結果				①受講票 ②中間審査結果				①受講票 ②学位申請論文の提出							
講義日程	時間割参照															
教科書参考書																

## ●時間割

## 皮膚科学

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20		皮膚科総論1	皮膚免疫学			共通教育科目
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10		真皮生物学	特別研究Ⅰ~Ⅲ			
5 限	18:00~19:30	皮膚科総論2	色素細胞学	皮膚病理学	表皮生物学		
6 限	19:40~21:10			創傷治癒学			
【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20		皮膚科総論1	皮膚免疫学			共通教育科目
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10		真皮生物学	特別研究Ⅰ~Ⅲ			
5 限	18:00~19:30	皮膚科総論2	色素細胞学	皮膚病理学	表皮生物学		
6 限	19:40~21:10			創傷治癒学			

<履修スケジュール> ※各自記録してください。

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						

【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						